

芸術科（美術）「美術Ⅰ」学習指導案

府立〇〇高等学校

1. 日 時 令和〇年〇月〇日（〇）

2. 学年・組 第1学年〇組（40名）

3. 題 材 名 「学校ポスター制作」（全10時間）

4. 題 材 の 目 標

【知識及び技能】視覚的に人に伝えるための色彩や構成、文字の形を理解し作品に表す。

【思考力、判断力、表現力等】自身が伝えたい内容に沿って配色し、他者に効果的に伝わるように色の持つ効果や全体の構成などについて考え、作品に表す。

自身や他者の作品について表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。

【学びに向かう力、人間性等】伝えたい内容を表すための表現活動や見方や感じ方を深めるための鑑賞活動に粘り強く取り組む。

5. 教材観

次年度の1年生に本校のことを知ってもらおうと同時に、学校を訪れる後輩や地域の方、留学生や学校訪問に来てくれた方に向けて、学校の魅力を「Welcome ポスター」として表現・発信できるように考えさせる。どのような表現方法であれば多くの人に学校の魅力を伝えることができるかを考えさせ、生徒がターゲット（来訪者）をイメージしながらアイデアを膨らませることができるようにしたい。

6. 指導観

本校の魅力について考え、必要な情報を入手し、本校を訪れた多くの人に歓迎のメッセージを伝えるデザインについて考えることをねらいとしている。伝えたい内容を整理し発想を広げ、親しみやすさなど広く効果的に伝えるための表現方法の工夫を考えさせたい。ポスターを制作する際は、アクリル絵の具を使用し、筆を持って描くことで効率的な制作の手順や絵の具の特性を知るとともに、自身で色の調整などができるようにさせたい。イメージに合わせた文字を一からデザインしたり、配色することについて制作をしながら学ばせたい。

課題の趣旨については、Google classroomで配信するとともに、判断基準表も添付して授業初めに示すことで、課題の意図が生徒にしっかり伝わるように徹底する。

7. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「Welcome ○○高校」をテーマとして、学校のイメージや伝えたい内容と自身のオリジナリティを融合させた魅力あふれる作品にするために色彩や構成の知識を生かしている。 ・筆と絵具等を使ってポスター制作に適した表現を行っている。	・学校のイメージや伝えたい内容と自身のオリジナリティを融合させた魅力あふれる作品にするための色彩や構成、画材について考えている。 ・作品制作において描画材や絵具の使い方を工夫し、丁寧に仕上げようと意識し、表現している。	・学校のイメージや伝えたい内容について、色彩や構成について粘り強く考えようとしている。 ・描画材や絵具の使い方を工夫し、隅々まで丁寧に表現しようとしている。

8. 題材の指導と評価の計画（全10時間）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】（評価方法等） [何ができるようになるか]
			知	思	主	
1・2	色のイメージや構成・効果について 「Welcome ○○高校」をテーマとしたポスター制作の構想を練る	・Chromebookを使用して「色の三原色」「光の三原色」について学びながら簡単な画面構成の作り方を学ぶ。Chromebookの画面で確認する。 ・○○高校のイメージについてグループで話し合い、伝えたい内容・イメージについて整理し、グループ内で共有する。 ・内容をワークシートにまとめる。		●	●	【思・判・表】（ワークシート） 「色の三原色」「光の三原色」を活用し、Chromebookの画面上で簡単な画面構成を制作することができる。 【思・判・表】（ワークシート） 「Welcome ○○高校」のポスターづくりについて見る人に伝えたいイメージを考えている。 【主】（取組み状況）（ワークシート） グループで話し合い、○○高校のイメージを膨らませワークシートにまとめている。
3 8	ポスター本制作	・アイデアスケッチをもとに自身で計画を立て、意図に応じて描画材の特性を生かし制作する。 ・ワークシートや教科書で学んだ配色や構成をもとに、めざすイメージを確認しつつ描き進める。	●	●	●	【知・技】（アイデアスケッチ・作品） イメージに合わせて形や色を工夫し、描画材を効果的に使って創造的に表している。 【思・判・表】（作品） ポスター作品の伝えたい意図に応じて描画材の特性や表現方法を工夫して作品制作をしている。 【主】（作品） めざすイメージを具体化する創造活動に主体的に取り組んでいる。
9・10 （本時）	・全体の制作過程の振り返り ・まとめと発表 ・他者の作品の鑑賞	・全体の制作過程を振り返り、工夫した点やよくできた点などをワークシートにまとめる。 ・作品の写真をスライドに貼り付け、プレゼンテーションを行う。 ・作品の制作意図の中で自分が作りたいイメージと配色計画、構図について関連付けて発表するよう心掛ける。相互評価の際、他者の作品についても関連付けを意識して見るようにする。	○	○	○	【知・技】（作品） 作品のイメージに合わせて形や色を工夫し、描画材を効果的に使いながら、丁寧に仕上げていく。 【思・判・表】（発表・ワークシート） 作品の制作意図の中で自分が作りたいイメージと配色計画、構図について関連付けて発表している。相互評価の際、他者の作品についても関連付けを意識して見る事ができている。 【主】（発表・ワークシート） 自身が伝えたい内容や色彩、構成、文字のデザインについて、表現の意図を伝える発表の活動や鑑賞の活動に主体的に取り組んでいる。

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

自身が伝えたかった内容や色彩、構成、文字のデザインの工夫について、表現の意図を伝える発表を行い、他者の作品の良さなどに気付くことができる。「伝わる」ポスターについて考え、構図や色彩の効果について気付き、自身の作品を振り返る中で、他者が自身の作品に対してどのような見方や感じ方をしているか、考えを深める。

(2) 本時の評価規準

【知識・技能】

- 自身が伝えたいイメージと色彩や構成の効果、文字のデザインとを関連付けて、発表資料を作成している。

【思考・判断・表現】

- 伝えたいイメージと配色計画や構図について関連付けて、制作意図を発表している。
- 色彩の効果や構図について、他者の作品の良さを見つけるとともに、他者が自身の作品に対してどのような見方や感じ方をしているか、考えを深めている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 自身が伝えたかったイメージや色彩、構成、文字のデザインの工夫について、表現の意図を伝える発表の活動や他者の作品の良さを見つける鑑賞の活動に主体的に取り組んでいる。

(3) 本時の準備物

生徒：教科書、Chromebook、ワークシート、作品

教員：教科書、PC、プロジェクター等

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
10分導入	自身の制作過程を振り返り工夫した点やよくできた点について考え、付箋に入力する。 自身の作品の写真と制作過程を振り返って工夫した点、よくできた点をスライドに貼り付ける。	机間指導の際に、操作方法で困っている生徒に個別に対応する。	【知・技】 自身が伝えたいイメージと色彩や構成の効果、文字のデザインとを関連付けて、発表資料を作成している。 (スライド) 【主態】 自身が伝えたかった内容や色彩、構成、文字のデザインの工夫した点やよくできた点を見やすくまとめている。(取組み状況、スライド)
35分展開	【鑑賞】 良作と思われる作品を3点選び、その理由を具体的に述べる。他者の作品について工夫した点やよくできたところについて感じ取り、課題の意図と配色や構図について関連付けて見るようにする。	相互評価の際、課題意図について教員が使用する判断基準を再確認し、参考にしながら良作と思う作品を3点選ぶ。	【思・判・表】 他者の作品の良さがどのような要素（色彩の効果や構図等）からなのか、具体的に見出し、他者の作品の良さを見つけている。また、他者が自身の作品に対してどのような見方や感じ方をしているか考えを深めている。 (ワークシート)

5 分 ま と め	制作を通して他者の作品について良さを感じ取り、今後の自身の作品づくりに生かせるようにする。	作品づくりや他者の作品を見る中で、身の回りにおける広告やポスターにおける伝えるための工夫について、意識を向け考えられるようにする。	【主態】 他者からの気付きや見方について知り、自身の作品について振り返る鑑賞の活動に主体的に取り組んでいる。(発表の様子、ワークシート)
-----------------------	---	---	---

(5) 「観点別学習状況の評価」の判断基準の設定

評価の観点	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) の生徒に対するてで
知識・技能	構図や色彩について学んだことを生かしながら自身が伝えたい内容と色彩や構成の効果、文字のデザインとを関連付けて、作品を仕上げている。「〇〇高校の良さ」が伝わるように視覚的に工夫した点が効果的に表現でき、より他者に伝わる作品になっている。	自身が伝えたいイメージと色彩や構成の効果、文字のデザインとを関連付けて、作品を仕上げている。「〇〇高校の良さ」が伝わるように視覚的に工夫することができ、他者に伝わる作品になっている。	「〇〇高校の良さ」についてどのような配色や構図にすると効果的で、他者に伝わる作品かを考えさせる。
思考・判断・表現 (鑑賞)	他者の作品の良さがどのような要素 (色彩の効果や構図等) からなのか、具体的に見出し、他者の作品の良さを見つけている。また、自身の作品に対して自分が作りたいイメージと配色計画、構図との関連を客観的な視点で捉え、説明している。	他者の作品の良さがどのような要素 (色彩の効果や構図等) からなのか、具体的に見出し、他者の作品の良さを見つけている。また、他者が自身の作品に対してどのような見方や感じ方をしているか考えを深めている。	作品について肯定的にとらえられる点を抜き出し評価できるように支援する。 他者の作品について「どういったところが良いと感じたのか」を丁寧に掘り下げていく。
主体的に学習に取り組む態度	自身が作品に込めた思い、伝えなかったイメージや色彩、構成、文字のデザインの工夫した点やよくできた点など、表現の意図を発表している。他者の作品の良さ等を感じ取り、公正に評価しようとしている。	自身の作品について伝えなかったイメージや色彩、構成、文字のデザインの工夫した点やよくできた点を見やすくまとめ、表現の意図を発表している。他者の作品の良さ等を感じ取り、評価しようとしている。	自身の作品について客観的に見た視点と、他者の作品について評価できることについて前向きにとらえられるように指導する。